

旭陵留学を経験した先輩方の近況報告をいたします!



第2期生 西尾慶太さん(福岡中出身) 平成18年夏出発 派遣国:アメリカ合衆国



西尾慶太さんは東京大学教養学部文科Ⅲ類を卒業後、大手銀行での勤務を皮切りに様々な分野で活躍されています。以下、西尾慶太さんからの報告を掲載いたします。

Q: まずは近況報告からお願いします。

旭陵留学発足 20 周年おめでとうございます。またこのような稀有な制度の創設からこれまでの継続にご尽力頂いた同窓生及び関係者の皆様にお礼申し上げます。旭陵留学を経て東京の大学に進学後、銀行員を経て、一度、中津川には選挙出馬のため帰らせて頂きました。その後、東京に戻り、監査法人や金融庁などでの勤務を経て、現在はグローバルで展開する大手のコンサルティング会社に勤務をしております。仕事は日本を代表する企業様に対して、グローバルでの業務変革等のご支援を行っています。社内の海外拠点メンバーやクライアントの海外拠点の方々と英語を使ったコミュニケーションをする機会も多く、旭陵留学を通じて培った英語力が自身の大きな強みの一つとして、キャリアに役立てられています。

Q: 旭陵留学が今の自分にどう生きていますか?

英語力を培う土台となったということがまずあります。留学前でも一定は英語力には自信があり、少しは通じるだろうと思ったのが、全く聞き取れずショックだった記憶があります(笑)。もちろん留学して 10 カ月ほどで劇的に改善をしたわけではありませんが、自身の客観的能力の立ち位置を知れたこと、また帰国後も自身の能力の研鑽を続けようという強い動機となりました。大学卒業前に一定英語力を高められたおかげで、自身のキャリアでもグローバルの案件や仕事に関わる機会を多く得ることができ、グローバルな環境でキャリアを構築して行くことができました。

語学力以上に大きく学べたことは、異なる国の人がお互いを理解しあうために何が必要かを考える土台となったことだと思います。それは単なる語学力だけではありません。もちろん当時は拙い英語力が主な原因でコミュニケーションがうまくいかなかったため悩みが多くうまれた面はありますが、現在は仕事をする中で一定英語力も向上した中、英語力そのものが原因で海外のメンバーとのコミュニケーションに苦しみということはそこまでありません。一方で、これは仕事をする中で、ロジックで話をすればいい世界だからという一面もあり、本当に生活を共にするといった場合や、プライベートを含めて信頼関係を構築する必要があるとなった場合、また、全く異なる難しさがあると感じています。これは、異なる価値観を持つ人に対して、自分の考えを押し付けようとしめない謙虚さや、相手の価値観や背景を学ぼうとする好奇心、それを受け入れられる包容力、異なる価値観を持つ中でも同じ方向性に進むことを合意するためのリーダーシップなど、総合的な人間力のような部分も多いと感じています。私自身も、これからもそういった点を高められるよう研鑽し続けたいと考えています。

Q: 今後の夢や希望について教えてください。

今は特定の会社で勤務をしており、個人としては一定グローバルでの仕事の経験も積めてきた部分はあるかなと思いますが、そこで培った経験等を、母校の生徒や地元中津川にも何らかの形でいずれは還元できるようにしたいです。

また、旭陵留学の制度を創設及び運営頂いた方々の意思がこれからも未来に繋がれていくように、自分もいつかは、何かしらの形でこの制度の継続・更なる発展に貢献していきたいと考えております。

第2期生
西尾慶太さん

第2期生 西尾貴仁さん

前回のジャーナル3号で近況
報告をして頂きました。

西尾慶太さんと留学先
で同じ高校に通われた
たご友人



次回予告

次回の旭陵留学ジャーナルでも引き続き OG・OB の方々の近況報告を紹介いたします。お楽しみに♪